



総 題 霊の結ぶ実

SDA聴覚しょうがい者友の会教材部

第 6 課 霊の結ぶ実は親切

森 博光

2010, 1, 30~2010, 2, 5

はじめに 1月30日(土曜日)

今週は5つめの霊の結ぶ実(親切)を考えます。テーマには「親切はより積極的な愛の表現」「親切はさまざまな形で表される『動詞』です」とあります。親切はそれを受けると、人の心に灯り始める、温かさの詰まった、愛のバトンのようなものなのかも知れません。久留米市で議会議長賞を取った中学3年生の言葉は「親切はほんの少しの勇氣から」、会長賞は高校3年生の「親切は人の心の贈り物」でした。実に親切のつぼを言い得て「ぐっ」ときますね。しかしガイドの言葉は、親切のルーツ(はじまり)に届きます。「(親切)それは、私たちの神がどのような方であるかをあかしする証人です」。かみしめたい言葉です。今週の霊の実もすばらしい御馳走です。

1. 親切の模範(マタ5:43~48) 1月31日(日曜日)

今日のみ言葉で「完全」の意味が問われています。「完全」という言葉から考えられるのは、一点の曇りもないということです。でも私たちには、とてもそんな生き方は出来ません。自分のことはよく知っているからです。しかしパウロは

「わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全な者になっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです」(フィリピ3:12)と言いました。あのパウロでさえ、そうでした。でも、そこで、だから「もう駄目だ」と諦めなかったのです。捕らえるために、目標をめざして走り続けることを決めたのです。これがクリスチャンとして大切なことなのです。

フランス革命の少し後に起こった出来事があります。ある司祭が救いを望んでいる危篤(病気が重く死にそう)の病人を尋ねるためパリの屋根裏に案内されました。司祭はその病人をみて気づくのです。司祭が少年のころ、自分の家で働いていた召使であること、そして革命中に自分の父親を殺した犯人であるということを。司祭は全身に震えを感じますが、自分自身と闘いながら、赦しを与え、聖体(キリストの体をあらわすパン)を授けるのです。自分で赦しを与えた犯人を、自分も赦そうと必死に努めたのです。そして、一生、赦しの重さ、深さ、高さを心の底で感じ続けようとしたのです。「私たちの力とあかしは、陰府の力も対抗できないものとなります」(ガイド)。

2. 「死んだ犬」への親切 2月1日(月曜日)

ダビデは国が落ち着いてきた時に、サウルの家の人々を探しました。ダビデは自分がヨナタンとした約束のゆえに、彼らを大切に扱おうとしたからです。そこにヨナタンの子でメピボセテという両足の不自由な人がいました。ダビデはそれを知ると喜んで、彼にサウルの家土地を返し、メピボセテを普通以上の待遇で自分の家に召し寄せました。メピボ

セテは障害者です。「愛を解き放つのは親切であり、親切が愛に両手、両足を与え…」(副読本より)とは何と素敵な言葉でしょう。ダビデの親切はまさにそうでした。メピボセテは愛の見える王ダビデのもとで、ダビデの親友である父ヨナタンを思い、自分の境遇に対しての深い神への愛と感謝を覚えたのではないのでしょうか。

3. 親切な言葉 (エフェ 4 : 3 2) 2月2日(火曜日)

親切な言葉は、家庭と家族間の中でこそ一番聞くべきですが、あなたの所はどうなのでしょう? 家庭で親切という実が弾けるとこんな風になります。家庭は美しい所。王である夫と、王妃である妻、そして王子と王女がいる所。心配や憂いが癒されるすばらしい病院。美味しい食事が提供される素敵なレストラン。失敗と過ちが赦される人生の訓練所。心身共に疲れを癒す最上のホテル。神の子らが集まって祈る教会。すべてのことを学べるすばらしい学校。希望が叶えられる総合百貨店。愛すべき家族と共に心から楽しめるレジャーランド。

4. 親切は返される (ルカ 6 : 3 8) 2月3日(水曜日)

「人に親切にすれば、人からも親切にされるものです」(ガイド)。ある小学校低学年のクラスで、子供たちは先生から「好きな友達と嫌いな友達の名前を何人でも書きなさい」と紙を渡されました。好きな友達の名前を一番多く書いた子が最も多くの子から好かれ、嫌いな子の名前を一番多く書いた子は、みんなから最も嫌われていたということです。当然なことですね。こちらが笑えば相手も笑う。こちらが嫌えば相手も嫌う。こちらが穏やかに話せば相手も穏やかに話す。こちらが上から命令口調でものを言えば、相手も怒りや反発で返す。こちらがすることと同じことを相手も返してくる、これが「鏡の法則」です。こちらがやったように、戻ってくる、そう! まるでブーメランです。

5. 親切を身に着ける (コロ 3 : 1 2 ~ 1 4) 2月4日(木曜日)

こんな文を見つけました。【小さな親切】「私は学校から帰る途中、同級生ヘンリーを見かけました。週末の金曜日なのに、山ほどの教科書を手で運んでいたのが余程ガリ勉屋だと思いました。突然、不良連中がヘンリーの方へ走って行って、何も言わずにその教科書を地面に投げ捨て、彼らはヘンリーを強く蹴つ飛ばしたのです。彼の眼鏡は数メートル飛んで行き芝生に落ちました。連中が去ってからヘンリーが顔を上げた時、私は彼の眼に恐ろしい悲しみを見ました。私は彼の方へ走って眼鏡を捜しました。ヘンリーは私の仲間ではなかったけれど、この事を見た私の心は痛みました。眼鏡を渡すと彼の目に涙があふれました。彼の家は私と近かったので、一緒に歩いて帰りました。ヘンリーと話して見ると僕とは気が合って、結構いいやつだと思いました。それから、高校の三年間を通してヘンリーと僕はベスト・フレンドになりました。色々な楽しい思い出を一緒に作りました。

やがて高校の卒業の日が来ました。卒業生の中でヘンリーの成績が一番なので、生徒の代表として彼はスピーチをする事になりました。校長先生を初め、他の先生そして両親にも感謝を述べていました。その方々のお陰で今日、高校を卒業する事が出来たことなどを。そして次にこんなことを言い始めたのです。『しかしながら、私にとって友人の支えはとても大切でした。実は、高校を通して私に友人が出来たことは一番良いプレゼント

になりました。なぜなら、私のお話を聞いたら分かります。』

そして、ヘンリーは三年前、連中に襲^{おそ}われた日の事を語り始めました。実は、その週末、自分の命を取ろうとする計画がひそかに彼にあったのです。友達が出来なくて、いじめられたヘンリーは生きる力と意志を失ってしまいました。そして、後でお母さんが自分のロッカーを片付けなくても良いように、その日、自分の手でロッカーを片付け教科書を全部家へ持って帰ろうとしました。そのときヘンリーは僕の方を見て笑いながら言いました。『大変ありがたい事に、私は救われました。その日、私の友人となったある人が口にするのも恐ろしい程のことから私を救ってくれたので、その友人のお陰^{かげ}で今日このように皆さんの前に立つ事が出来ました』。その時、私は小さな親切^{さと}の力を悟りました。

一つの親切^{い し ひょうじ}の意思表示は人の人生をすっかり変える力があります。」

親切^{すご}の力の凄さを教えてくれる文章です。副読本に「神がご自分の愛を表現される方法の一つは、親切です」とありました。私たちも周りの方々に対して、私たちの神がどのような方であるかをあかしする(親切^{しょうにん}の)証人として生きたいものです。